

《ロンドンからのたより(両親宛)》・1974a
～グロスタープレイス綴れ模様:その1～



1974年1月24日

お父さま&お母さまへ

めでたくお引越は完了しました。晴れて **Glouceter Place** の住人となりました。自分の思ったとおりに事が運ぶということが此の国ではひじょうに至難なのは骨身に沁みて分かっていたわけだから、此の度の幸運には本当に踊りだしたいような心境です。昨晚、家具やベッド



を移動させて、自分の気に入るようにお部屋を模様替えして、ベッド・メイキングも済ませて、ホツとしたときには、これが自分の部屋だということが信じられないほど素敵になっちゃってました。やっと勉強が出来る、落ち着けるという、どうしようもない喜びでいっぱいなのです。

フラットをシェアする他の二人の女性は好感の持てるいい人たちです。アドリーンは、ニュージーランドから来た金髪娘。商社に勤務してる。ジェーンは、生粋の英国婦人でちょっと理系のインテリ。化学関連のラボにお勤めとか。彼女は10年以上もここに住んでらして、万事暮らしのコツを心得てるの。本当に驚くほどなにもかも、いわゆる家庭機具、ハンマーとか釘とか、電灯の球とか、まるでありとあらゆるものを揃えている。‘根無し草’の私などは、そのがっちり根を張っている彼女の暮らしぶりには圧倒される。事細かく、いろいろと親身になって手を貸してくれて、それから買い物にゆく店屋さんとか近くの

診療所のホームドクターやらすべて教えてもらいました。台所用品、いわゆる料理の皿とか、ナイフ・フォーク等は共同で使わせてもらえるの。食事は一人ひとり帰宅時間が違うので別々なのです。今から私は食料の買出しに行くところです。本当に、人間関係のいい、和気藹々とした雰囲気です。清潔に明るく暮らせるわけですから、児童養護施設【ホリス】を去った10日前のことがまるで嘘かと思えるほどです。



次の就職の件、幼児教育関連の仕事は概してお給料がいいとは言えないけど。下宿代が有難いほど安いし、ここはロンドン中央でも地下鉄 **Baker Street** 駅のすぐ近くですから、ひじょうに地の利のいいところなので、たぶん交通費があまり掛からないでしょうし。たぶん、上手に遣り繰りできると思うのです。

一日も早く落ち着いて、勉強に専念したいと思ってます。実は、タヴィのセミナーの一つは『乳幼児観察』で、毎週家庭訪問をして乳児を観察し、その報告をそれぞれに発表しあうというグループなのですが、これ迄私は【ホリス】での勤務の関係上、時間の都合がつきにくくて、観察対象の赤ちゃんを持つのを延期していたのですが、これでやっと始められるとホツしてます。それから、タヴィストックの図書室には実に素晴らしい本がいっぱいあるのですよ。これ迄借りて読むという余裕がまるで持てなかったのですが、今日こそ何冊か借りようと思ってます。貸し出しには名前を登録するわけなのね。総てのことが嬉しく頑張らなくてとは張り切っています。

いつぞやはタヴィストックの付属機関の児童療育施設で職が得られそうで得られなかったのに、とても当てにしていただけに些かがっかりしていたのですが。実は初めて所長に会った時から、全体の雰囲気になんとなく好きじゃなかったのですし、仕事もあまり私に向かないという気もしたし、そういうわけで改めて職探しは新規巻き直しといったところ。今や私は慎重に良い人間を選び、良い仕事を選ぶことを心掛けています。有難いことに、タヴィの先生方にアドヴァイスを得られるので、総てうまくゆくと思ってます。

明日は「ホリス」に小包みを(給料も)受け取りに行きます。やっと届いた届いたとホッとしました。やっぱりすごく嬉しいです。開けてびっくりの後に、又たよりますね。かしこ

千鶴子より

(新住所: 121 Gloucester Place,
London W1, England)



1974年1月25日

お父さま&お母さまへ

今日、【ホリス】の事務局に赴き、荷物(船便1個、航空便1個)を受け取りました。1週間以上もご無沙汰して、その間に手紙やら小包みやらごっそり私宛に来たもので、オフィスの人々は、やれやれチズコがやっと取りに来たかと、随分冷やかされました。<貴女のお母さまはどんなにか貴女を愛しているのかわからないけど、一体中身はなんなの>って訊くのよ! おっかしいねえ。それで、Mrs.マージという係りの人なのだけど、その人が最後に、<あともう小包みは来ないんでしょね>とかからかい混じりに尋ねるので、

私も笑って<もう来ませんから>と返答したのに、なんとまあ、お母さまからのたより(1/22 付)で、もう一つ航空便の小包みに来るらしいのを知って、あれまあと、内心慌てた次第です。早速、月曜に彼女に電話しなきゃ。また冷やかされるわねえ。今日、最後の週のお給料をもらったし、あとロンドン市局から退職金として幾ばくか入ることになっていますので、ちょっと嬉しいです。それから、【ホリス】に居た間、256ポンド近くの貯金が出来ましたけど、この物価高ですから、あまり多額とは言えません。

とにかく今私は、いろいろと身辺整理しなきゃならないことが多々あって、まだまだ【ホリス】での体験を振り返り、総括するだけの余裕はないのですけど。それに私は英国人を批評するのを避ける傾向があって、もう一つよく解んないという感じが付き纏うからだけど。どう見ても【ホリス】の人間の質は低いです。今日オフィスへ行く途中、偶然同じ車を降りた別のコテッジのスタッフで、以前ちょっと話したことのある若い男性と一緒に、ついお喋りしたのだけど。彼も1週間のうちに去るって言うの。彼と話しながら、まるで同感なことばかりで、居たたまれないのは私ばかりでもなかったのだと安堵したのでした。彼が言うには、<僕はまともな人間だから、こんな所は住めない>って。コテッジはそれぞれだから、各々の実態を知らない以上何がどうなのか解んないけど、本当に【ホリス】全体がだんだんおかしくなってゆくみたい。まともな人は去り、おかしなのがやって来る。もはや去るのが勝ちということではあるとしても…。まったくのところ、【ホリス】に措置された子どもらに負けず劣らず異国で寄る辺ない身であった私のような半端な者に一応のチャンスを与えてくれたという意味では、やはり英国の懐の深さというものにはどうしても脱帽です。この恩義は生涯忘れないでしょう。

【ホリス】で出会った人で‘いい人’と云えば、5本の指で数えても足りる程だけど。レズレイというかつて同僚だった女友だちは、私が【ホリス】を去る日、荷物を運ぶのを手伝ってくれて、ロンドン中央のホステルまでご主人運転の車でわざわざ見送ってくださったのよ。どんなに助かったことか。やはり困った人を見ればごく自然に手を差し伸べる、イギリス人独特の‘ホスピタリティ’には感動するの。彼女には実にいろんなこと学んだけど。一つ、忘れ難いエピソードがある。或日、彼女が仕事を終えて帰る際に、<今日は給料日だから、彼が待ってるの。だから、帰るわね>と云った、その時のこと。ああ、夫婦するって、そういうことなのか。僅かな週給を共に喜び分かち合うということなんだって。明らかにご主人が財布の紐をがっちり握ってるって感じだけど。彼女は健気にも嬉々として受け容れている。私よりも幾つも年下の彼女に痛く感じ入るものがあった。とつても大人だなんて…。

今回受け取った手紙の中に、【ホリス】に夏の間滞在していたローズメアリー(2歳半の可愛い女の子)のお父さん・お母さんからのあって、ぜひヨークに遊びいらっしやいというお招きだったのよ。それから、Mrs.マーフィーという『ラーチ』のお手伝いのおばさんも、お別れに私をわざわざお茶に招いてくださったりでしたし。もう二度と彼らには会えないかもしれないけど、いい人たちというのは決して決して忘れずに心のうちに大切にいつまでも抱えていたいものです。

ところで、今の住まいのこのビルディングは、教育関係の或財団の所有とからしく、1階はオフィスになっていて、2～4階がフラット(貸し部屋)になっているのです。下階に住み込みのいわゆる門番さんが居て、管理的な役

割もなさるの。それから入り口に名札があって、出入りの折にその名札をひっくり返して、居住・不在を示すようになっていたり。手紙やら牛乳やらは、朝運んでもらったりというわけで、かなり格式高いフラットというわけなのです。先ほど階段下の玄関口で偶然3階に住んでおいでのご夫妻の、ご主人の方と出くわしたんだけど。まるで紳士然(英国人、生粋の！)としてらして、私はあれまあと、ちょっと気後れがしたぐらいなのです。その品格、堂々たる物腰ってのはちょっと真似が出来ないのです。上には上があるというのかしら。いかにも取り澄ました気取り(スノブ)って勿論嫌いだけど、やはり品格が漂う人たちがいるって、此国を改めて見直す気分なの。ともかくタヴィストック・コースの先生方も、Dr.カーベルも皆、私がロンドンへ戻ってきたのを喜んでくれてますし、場所柄誰にでも誇っていいわけだから、私はすごく嬉しいです。嬉しいというよりはむしろ、ハッピーじゃない私では自分のプライドが許さないわけ。ようやくにして、お付き合いいただいている誰彼にもうご心配をお掛けせずともいい、安心してもらえることがやはりやれやれといった境地なのです。早速に、バーミンガムのケトルご夫妻からわざわざご丁寧にごチョコレートの箱が送られてきました。ちょっと甘やかされる気分が悪くないわね。

さて、お届けいただいた日本からの小包の中身は嬉しいものばかりで、言葉ではとても言い尽くせません。食べるのが惜しいくらいと言いながら、早速に今晚は、五目飯と昆布とお茶をいただきました。異国での日本食、これって、とつても豪華版！それから、お父さまの仕事がとつても順調にいとつて、ホッとします。良かった、良かったねえ。ではいづれ又。

千鶴子より

.....



1974年1月27日

お父さま&お母さまへ

そちらからのたよりは5~7日でこちらに届きますが、こちらからは随分と日数が掛かる様子ですね。従って、【ホリス】を引き払い、ロンドンへ戻ったことが了解されているやらどうやら、しばらくそちらからのたよりが届くまでは、まるで一方通行の感がするけど、せつせと書き綴ります。

まずは、先日お届けいただいた小包の中身についてのご報告。実は今、「鰻めし」を食べ終わったとこだけど…。お父さまが問屋で買い占めたって?! どうもどうも有難うさん! それにお吸い物(緑の豆と卵ととろろ…)。美味で、やっぱり何とも言えない味覚ですね。それから、日本人に関する書籍、あれ有難いです。というのは、プライベート・スーパーヴィジョンをもらっているMrs. M. ラスティン女史に、一応【ホリス】での仕事も終え、次の幼児教育の仕事は大して難なくやれると思うけど、どうももう一つ、英国人の感情とか行動パターンがじっくりこなくて、どうしてそんなに違うのか、知りたい気がするのです。隔週ご指導の時間をさらに延長してお願いしたとこなのでしたが。あれがとても助かると思うのです。それから辞書も…。実は、お茶袋とキューチャン漬けの漬物とがほんとうに無惨にも破壊されていて、従って小包みを開けた時はどうしようもない有り様だったのだけど、まるで奇跡的に本は無傷だったのです。表紙は多少汚れたので捨てたけど、あと全然なんともなかったのはまるで嘘のようです。取り扱いがひじょうに粗いし、ロンドンからシドカップ駅までの間にストライキの関係で、どこかの倉庫にも置かれていたのでしょう。とにかく泣きたいようなことにもならず、無事届いて、私はとてもホッとしています。贈答用の

若狭塗りのお盆は今のところ、特に誰にあげることもありませんから、大事に保管してます。ところで、航空便の方は、思いがけず、お母さまにいつぞや頼んでいたのをすっかり忘れていたのだけど、布の端切れがごっそり入っていて、可笑しいやらびっくりするやら。本当に嬉しかったです。そのうち余裕が出来た頃に役立つでしょう。それに日本の玩具も…。なんとやら可笑しいとは言え、とっても懐かしいのでした。アデリーンに見せながら、お母さんっていつまでも、27の娘でも、ちっちゃな子どもと思っているのかなあって大笑い! 勿論私にはではなく、どなたかに差し上げなさいということでしょうから。ローズメリーにいつか会いにゆくとのお土産にするといいわね。喜ぶね!

アデリーンはニュージーランド(オーストラリアのお隣の島)から来た若い娘さんですが。綺麗に詰められた缶詰の箱を見せて、お母さんからだって、自慢するわけ。イギリスの北部の方にニュージーランドと提携のある会社があって、そこからお母さんからの申し込みで送ってきたって。従って、輸送料がタダというわけで、賢いなあと思ったけど。私の場合もそんなところを探したいものです。とにかく家からだって、見せ合いっこするなんて、なんともほのぼのとするねえ。タヴィのコースにいる、同期の或る若い女の人、ちょっとお喋りしたんだけど。ふと何気なしに実家(イギリス南部だって)とは10年以上も音沙汰なしだって、彼女言ってたよ。なんとなくズキンと寂しさを、まあ他人事とはいえ、感じちゃう。でも概して家族のことなどそもそも話の種にすること自体が此国では稀有なのよ。必ずしも疎遠だからということでもなくて、皆それぞれ自分は自分って自立して生きているからで。だから、私も嬉しそうに日本の家族のこと自慢話するのって要注意なのね。それって、実に子どもっぽいわけなの。でもねえ、

やはり家族って気持ちが癒されるし、あったかくなる。それから写真だけど・・・孫のジュンちゃんはいやにでっかい子やねえ。賢そう育て甲斐があるって感じですねえ。皆がもう彼に夢中ね！

今のところ、これ迄の余裕のない生活が祟って、整理しなきゃならないことがごっそり、ほんと大忙しですが。今日は日曜なので、晩に国営の映画劇場で、いいフィルム(映画)を安く見せてくれるところがあるので、そこへ行ってくるつもりです。さて、ノルエーからそちら付けで私宛にたよりのあった美枝さんには、たよりしましたので、ご安心ください。どうもいろいろと有難う！

千鶴子より



1974年2月4日

お父さま&お母さまへ

このフラットの暮らしも10日余りなわけだけど、まるで何年も居るみたいにすっかり慣れて、落ち着いた生活をしています。ジェーンが一応私のいわゆる‘大屋さん’というわけなのですが、下宿代のこと何も言わないので、尋ねたら、いつでもいいって言うの、週払いでも月払いでも、とにかく私が職を持つまで払わないでも全然構わないって言うのよ。週6ポンドの家賃を払うぐらいの余裕はあるけど、そう言ってもらうだけでも何となくホッとするじゃないのね。週8ポンドの下宿で毎週厳しく請求されて、暗い狭い部屋で誰も喋る相手もないような状態で独り居るのだったら、どんなもんやったろうと、ほんとゾーとする！ジェーンという人はたぶん40歳以上やと思うけど、独身できびきびして、ひどく若い気分の人なのです。ちょっと痩せぎすでショートヘアの生粋の英国人です。フラットを共有するという事は決して気楽なことじゃないと思ってたし、孤

独癖がある私なんかうまく他の人とやれるかしらって、初めの頃、特に引越して来るまでちょっと不安だったのですが、これ迄のところ全然うまくいってます。ジェーンはお喋りがうまくて、私のようにちょっと引っ込み思案な者でも、ケラケラと喋れる感じで、何でもかんでも言えば何かと返ってくるものがあるので、それも会話の練習っていうわけでひどく助かるし、また気分的にもリラックスしてひどく朗らかでいられるのは驚くほどなのです。

近頃ようやくにしてMrs. M. ラステイン女史のもとに継続して個別指導に通いながら、これ迄言わずに、また言えずにいた多くの事柄、主に【ホリス】での経験を喋りに喋って、多くの示唆を貰い、改めて自分の感受性に自信を持っていいという悦ばしい状態に落ち着いたことに、ホッと安堵する思いです。先生からもくいい経験でしたね>って言われた。本当に語るのもくたびれる、しんどい経験がいっぱいだったけど、お蔭で得るものは得たと言えるのです。

それから、《乳幼児観察セミナー》の先生のMrs. M. ハリスから、赤ちゃんを出産したばかりの或るお母さんを紹介されました。いよいよ私に出番が回ってきて、行動開始というわけなのです。

しかしながら、【ホリス】では決して一人前とも言えない私が、自分をそっこのけに子どもらの世話に明け暮れしていたツケということかしら。勉強時間すらも充分とは云えず、また洋服選びとかこまごまとした日常の暮らしでの自分のお世話さえも怠りがちに過ごした6ヶ月でしたので、今やあれもこれもとそれら不足を埋め合わせするのに懸命です。自分の必要を最優先にするってことだけど。まるで足枷手枷が外れたみたいに、日々思う存分気儘に飛び回ってます。

とにかくタヴィのコースの状況からして、他のひととの比較をすれば、私などは多くの点でまるで不利というか、多分に不足ぎみなのは一目瞭然で、それを埋めるには多くの時間を掛けなければならないのは自明の理なのです。此国の人に不慣れというか、それは英語力ばかりではなく、経験やら地理理解とか・・。周りを見渡せば、殆どの研修生が小児科医とか精神科医とか教育心理士とか、学歴が高く、年齢も中年以上で、安定した職歴を経ていらして、生活の苦勞もなきや、至極落ち着いて身綺麗にやっしておいでだから・・。私はかねがねこのままじゃいかんという焦りがあったし、児童養護施設【ホリス】ではもはや限界なのでした。この‘ナイナイ尽くし’のなかで、取り敢えず今の自分が必要としているものを探し回っているわけです。

因みに、明日はタイプ・ライターを物色してこようと思います。たぶん「タイピング・スクール」に通うことになります。8～12時間でマスターできるというシステムだって、本当かな？とにかくこれからタイプ・ライターは絶対に必需品なのです。それから子ども相手の仕事を始める迄に、コンタクト・レンズを買わなきゃとも思ってます。

仕事の方は、応募はしたので、そのうち返事がくるはずですし。もう一つ、よりいいかも知れないといった仕事を見つけたもので、そっちも応募してみました。そんなあんなの一方で、今はちょうどロンドンのあちこちで恒例のセール(大売り出し)の最中なものですから、私は足が棒になるほど店をはしごして見て歩いて、ようやく手頃な半コートを初め、靴・セーターなど買い求めて、やれやれと人心地がつかしましたわけ。

では又。かしこ 千鶴子より



1974年2月9日

お父さま&お母さまへ

今朝起き掛けにひどくびっくりしました。裏庭に一面雪が積もっていて、フワッと霏がかって窓の外が白っぽく、何しろ5階建てのトップに居るので、何やら夢見心地なのは仕方ないけど。よくよく見ても、やっぱり雪なのでした！昨晩はさほど寒いとも思わなかったのに、やはり今日の日中の寒さは冷え冷えとしました。風がきつく、午後にはまだ雪が消えずにいて、公園の芝生の緑に白が映えて、珍しい景観でした。それでも私の部屋はとても暖かいし(電気ストーヴで温度を調節できるの)、ホテルに居たときだけけど、石油の欠乏のためセントラル・ヒーティングが夜でもストップする 때가あって、寒いということほど惨めなことはないって感じで、皆ベッドで布団の中に潜り込んで何をするにも出来ずにお喋りするという具合だったのを思い出し、あったかくしていらるって、すごい贅沢だなあと思っているのです。

一応身の回りの整理(買い物・洗濯・繕い物、これ迄の読書メモの整理など)が出来たので、ここずうっとタイプ・ライターとレコードプレーヤーとテレビを求めてあちこちの店を物色して廻っていたのだけど、その高いこと！タイプ・ライターは、これから絶対必需品だし、レコードプレーヤーも子どもの歌や物語を覚えるのに必要だし、テレビもしょっちゅう英語を耳にしていないと上達できないし、ぜひ欲しいと思ったけど、あまりにもその価格がものすごいので怯んでしまいました。アドリオンがテレビは買うことはない、いつでも見たい時にわたしの部屋に来ればいいのだって言ってくれたし、当分はその線でゆくとして・・。レコードプレーヤーは唯今物色中。それでタイプ・ライターだけど、ついに念願成就！今日買ったの。

何軒も見歩いてきたけど、高くて高くて困っていたのだけど、ひょいとバスの窓越しに目にした店屋に立ち寄ってみたら、これならという線で手を打てたのだから、俄然ニコニコと嬉しくなったのです。定価が¥48.50 プラス税で、割引きされていて、¥26.40 という価格だからほぼ半額に近く、かつまっさらの新品で、店のおじさんもかなり親切で、私が満足するまであれこれつきあってくれたし、まあこれ以上のことは望めないと思ってます。ポータブルで色は濃い黒っぽい緑です。

それから、今日初めて日本食品を売っている『ミドリヤ』という店を訪ねてみました。店番のおばさんは英国人だったけどさ。ありとあらゆる日本食品があったのよ。お米(オーストラリア製)も買えたし。面白いのは「たくわんの缶詰」！「味の素」も買ったし。甘いものは羊羹1本だけ。それなんて200円近い価格だから、日本での大体1.5倍なんだと思う。上手に自分の好きなように食事を管理できるのは嬉しいです。それから、ヒョンなことで『ヒロコ』という日本の書籍類を売る小さな店を見つけて、そこで岩波新書を2冊買ったけど。品揃えがちょっと大衆的な感じで、専門書はなかったのが残念。その新書だけど、1冊が500円近くしたのだよ。高いわねえ。

それから、そちらからお送り下さった航空便の小包みは、明日【ホリス】の事務局に受け取りに行きますので、ご安心ください。とてもゆしみ！それに明日はまた、乳児観察の今後の打ち合わせのため、Mrs.ポメイアという奥さんに会うことになっています。ご自宅を訪問するの。どんな方かな、どんな赤ちゃんかな？いずれ報告致しますが。ちょっと胸わくわくでドキドキの心境です。では又。かしこ 千鶴子より



1974年2月10日

お父さま&お母さまへ

昨日【ホリス】の事務局にて、めでたく小包みを受け取りました。もう皆が冷やかして大変なものでした。中身は一体何だって訊くし。お母さんにチズコは太ってきたって言ってあげなきゃとか・・・もう散々！それからオフィスを出た後、路上でガードナー(庭仕事の人たち)が声を掛けてくれて、久し振りじゃないかって、中の一人が大袈裟に私を両腕に抱いて喜ぶもんで、他の連中も大賑わい！『ラーチ』の庭に薔薇を植えたとき(アン皇女の結婚式の日だった)、私の結婚式のときも絶対白い薔薇を植えに行ってるからって約束したもんだから、結婚は未だかあって訊かれる始末で・・・！私が『ラーチ』に居たとき、いつでも外働きの人が居るとお茶を出してやってたものだから、断然私の評判がいいというわけなのです。これって、割といい【ホリス】との幕切れじゃありませんか・・・ね！！

さて、小包みの中身の件、いろいろと有難う！布切れ、どうしてあんなに集めたのか、驚いています。こっちでは全然そんなもの売っているのを見たことがないので。それからね、もう笑っちゃった！中身を全部開けてみたとき、あれあれ、確かお金入れたって言った筈なのに無い。再びそっちこっち手探りしても無いし、ちょっと内心がっかりだなと思って、本の表紙は要らないからと捨てようとして、ヒョイとその裏に一万円札が隠されてあるのを見つけた！思わずギャーと、バカ笑いしちゃって。ジーンが顔を出し、<一体どうした？>って訊くので説明すると、彼女も<一枚だけ？もうないの？>って、一緒にあっちゃこっちゃひっくり返しての大騒ぎでした。飴もオカキも嬉しい！しばらく飾って眺めてるね。

それから例の木製の《煙草盆》ってやつ、オブジェとしては面白いけど、あまり外人さんには貰ってもピンと来ない代物で、私なにかいい使い途がないかなと思案中なのです。それだって、わざわざ遠路遙々よぞ来たと思えば、神棚にでもあげて拜んであげたいぐらいです。嬉しくて・・。

‘日本恋し病’は募る一方です。それでね、日本食品の店『ミドリヤ』に立ち寄った際に、掲示板で《British Koi-Keepers' Society (英国錦鯉協会)》ってのがあったのです。所在地は、ピーターバローといって、ロンドンから2時間ほどのところ。時折田舎へ出掛けて‘鯉’さんたちの顔見たいなって、それもいい考えだと閃いて、早速問い合わせの手紙を出しました。

それからもう一つ、《乳幼児観察セミナー》の先生のミセス・ハリスから紹介されて、やっと私も観察の赤ちゃんが持てました。ペピという、7週間の男児です。奥さんは白系英国人、40歳で小学校教師。ご主人は南アフリカ(ガーナ)出身なのです。彼女の2度目の結婚で、他に子どもはいません。二人とも(ミセス・ポメイアも私も)初めての赤ちゃん体験なので、いい話し相手になります。手芸がお好きで、可愛らしいものがいっぱいのお部屋で、私はいい人が当たったって、とっても喜んでます。毎週一年間も通うのですから、やはりいい関係を持ちたいと思うのね。それもご自宅がタヴィストック・センターから歩いてすぐその距離で、私は至極ラッキーなの。

それから、就職の件は、まともそうです(2番目のが・・)。それから3番目で、これはと思うのが現われたので、慎重に検討しています。とにかく3日後のインタビューのとき、向こうの様子が解ると思うし、いい条件を選んでるわけですので安心してください。かしこ 千鶴子より



1974年2月11日 =速達=

お父さま&お母さまへ

お父さまのお仕事の方がとっても順調に行っていると、お母さまから伺ってますし、この不況の時ですから、私も安堵しつつ喜んでおります。どうぞくれぐれもお体を大切に、特に事故などには絶対遭わぬように・・。それから、お父さまの精進の賜物ともいえる、我が家の池の愛すべき錦鯉たちもさぞや立派に育っているでしょうと時折とても懐かしいの。その錦鯉のことで、今日は至急にお伝えしたいことがあるのです。

まあこういうわけなのよ。昨日のたよりに、『ミカドヤ』という日本食品の店で、《英国錦鯉協会》があるのを知ったので、早速問い合わせの手紙を出したって言ったでしょ。そしたら、たぶん受け取ってすぐだと思うけど、Mrs. アレン(ディレクター・会長)がわざわざ今日電話を下さって、お父さまはどこに住んでいらっしゃるのか、英語が話せるかって、こうなのよ！実は、協会の会員二人が2週間後(2月24日)日本へ向けてロンドンを発つんだというわけなんですって。日本には全然知人がいないんだけど。とにかく本場の日本で錦鯉を見て歩きたいという願望を抱いての出発なんですって。どう思う？それでね、彼女が言うには、ぜひお父さまに<我々は錦鯉を愛している>って、伝えて欲しいって言うのよ。日本の皆さんにはひじょうに感謝してるって。協会の会員は3千人以上もいて、だけど日本人は一人もいないので、私のケースは特別で会費無料で名誉会員ということにして下さるってさ。話はちょっと前後するけど、私が父は日本の錦鯉協会の会員だって言ったら、アイリンカイ(愛鱗会)でしょって言って、その月刊雑誌をたくさん持っているけど、全然読めないの、ぜひ助けて欲しいって。そのように今後私を利用したい(役立

てたい)とおっしゃるわけ。それから、彼女のご主人は、ビジネスで日本に何回か行っているって言うのよ。それにしても会員が此の度日本へ行く折に誰も知った人がいないっていうので、私に至急の助けを求めてくるってのはどういうものかと思っただけ。きっと日本の《愛鱗会》とはなんら繋がりが無いんでしょうと思うのよ。何とんでもビジネスじゃなく、単に個人的な趣味人の集まりでしょ。きっと関係の仕様が無いのだという気がするの。たぶん雑誌を送ってもらうぐらいの程度でしょ。なんとんでも言葉が障害よね。向こうも心細いでしょう。実際日本へ鯉を見に行くといったって、言葉も知らなきゃ、どこへどうしてゆけばいいのやら解らず、まるで雲を掴む話とはこのことって感じだけど、彼等はまさに‘鯉キチ’なのよ、きっと！私は日本の《愛鱗会》の活動は全然よく知りませんけど。きっと外国へアピールしてゆくということはあまり念頭にはないんじゃないかな。外人が熱烈に興味があるって言っても、ヘエーって感じで・・・。Mrs. アレンがくわしたちは鯉を‘生産(養殖?)’してます>っておっしゃったわよ。彼ら、本格的だよ。そういうわけで‘乗りにかかった船’というわけでもないけど。なんとなく同志として、言葉を越えて、異国の者が友好を持つということは素晴らしいと思うので、そのお二人さんの件で、何かしてやればなあと思った次第なのね。言葉の障害と言っても、簡単な単語を知っていれば、何とかうまい具合にやれるものなの。育ちのいい、教育のある英国人は、品位とか態度とかいう、人の雰囲気や重んじるし、相手が英語がすらすら喋れないからって、イライラしたりは絶対しないと思うの。『ジャパン・ソサィティ・若竹会』の集まりの折、2年間日本に居たアイリンという女性は、<日本人はいつも私の下手な日本語を辛抱強く解ろうとしてくださった>って、とても感激の面持ちでおっしゃってたけど。

その通じないんじゃないかという心細さでいっぱいの時、誰かが解ろうという態度を示してくれるって、有難いってことないのだけど。向こうはその不自由さを覚悟で来るわけだから、こっちが遠慮して固くなることなんてまる～でないのです。

さてさて、Mrs. アレンとの話に戻るけど、私は、父親が《愛鱗会》の会員であるし、知った人も多いから、何とかそのお二人さんのお役に立つ人を探せるかも知れないって答えたのよ。それで、彼女、至急住所を知らせて欲しいというわけ。たぶん2、3日後に彼女からたよりが届くと思うの。そのお二人さんの名前と羽田到着日と帰国予定日(2週間後)の時間と大体のスケジュール(もし希望があれば・・・)と、それから他にお願いしたいことがあれば、それも詳しく書かれることでしょう。東京での宿泊のホテルぐらいいは向こうで予約してあると思うんだけどねえ。私もかつて『ホテル・ニューオータニ』の石庭と錦鯉を見たことがあったけど、全然大したことないの。やっぱり日本人の錦鯉愛好家の個人宅に泊まらせてもらって、時間の殆どを庭で鯉をみて費やすというのが一番の豪華版だけど。その世話をしてやれるような余裕のある人いるかな?とにかく東京支部を始め、心当たりを尽くして下さいますか?とにかく寺見物と違って、車であちこち遠出をして連れて歩かねばならないことになると思うのよ。本当に親切にしてやるならば・・・ね。そういうわけで、そうしてやらねばならない義理というのは全然無い関係なのですから。もし向こうが通訳を雇うなら、大体どこへ行けばいいかの情報を知らせてやるだけでいいかも・・・。とにかくまず第一に《愛鱗会》東京支部と連絡を取るように教えるのがいいかもね。しかしともかく誰か、それだけの世話でも引き受けてもらえる人を探すのが先決。まあとにかく宜しくお願い致します。

ロンドン郊外に時折出掛けるのもいいなあ、こちら英国の皆さん方と一緒に‘鯉さん’たちの顔を見れるなんていいなあと、まったく無邪気に思いついたことが、意外と意外な展開になっちゃいました。世の中って面白いねえ。英国では日本人の‘株’は驚くほどここ最近急上昇中なのです。Baker Streetといって、ロンドンではもっとも地代の高いところにどっかりと日本貿易社(JETRO)が建ちつつあるし、『ミカド』という一流の料亭もあるし。それは大変なことなのです。日本人だというと、どこの店でもニコニコ愛想してくれる。この昨今の世相は、私にしてみれば天地がひっくり返ったようで、日本人のパワーがジワジワと浸透してくるのを感じざるを得ないし。そういうことが、私が此地で惨めで情けない思いで暮らさずともすむことに繋がるのなら、大きな喜び以外の何ものでもないと思ってます。ではいずれ又。 千鶴子より

《追伸》: 小包みの中にあつた録音テープの件だけど、感激したわよ！お母さまなんて泣いちゃってさー。池の樋から流れる水音が聞こえるようやったけど。そりゃ何とも言えない懐かしい気持ち！お父さまがあんな事してくれるなんて夢にも思わなんだわ。なにしろ【民謡で綴る、わが家族の歴史】だもんね。実に傑作！それに選曲された民謡も実にいいのばかりが揃ってた！

私は‘現在’で手いっぱい、過去を振り返り、懐かしむ余裕などなかったけど。俄然想い出したわよ。お父さまの転勤に付き随って北海道やら茨城やらあちこち転々として、まるで我ら家族って‘キャラバン隊’でしたよね。自分の年とってゆくの忘れてる。歴史の生きた実態とその時間の記憶って違うのね。実に不思議な感覚でした！とにかくまずは、さようなら。



1974年2月12日 =速達=

お父さま&お母さまへ

昨日速達でご連絡しました《英国錦鯉協会》絡みの件ですが、今日改めてMrs. アレンからおたよりが届きまして、状況がより詳しく判明しましたので、お知らせします。

2週間後に日本へ行く人っていうのは、《英国錦鯉協会BKKS》の役員さんで、来年の4月に鯉を見にジャパン・ツアーを計画中なんだとかで、今回は、その幹事役として下見に行くって、こういうわけなの。その一人、Mr. シール(Seal)っていう方が責任者なのです。奥さんが同行するのかな。知りませんが・・・それからMrs. アレンは、協会の執務担当(秘書)で、ご主人のMr. アレンが会長なのです。彼の名刺を送ってくださっておりますので、念のため同封しますが、機器関連の会社の社長でいらっしゃる。どうやら日本とビジネス(取引)があたりみたいですね。その来年のジャパン・ツアーの企画について、たぶんMr. シールは今回大体の下見をするつもりでいると窺われますので、もし手助けしてやれるとしたらと思いましたが、念のため「スケジュール表」を同封します。かなりいい計画じゃない？よく調べたもんだわねえ。感心しました。やはり紛れもなく正真正銘の‘鯉キチ’でいらっしゃるでしょう！

それから、私が名誉会員になる話！私、笑っちゃったのだよ。300人以上(3千人じゃなかったの！)の名簿のぐんと上のところに私の名前が載るなんてねえ。それがさ、彼らの《鯉ニュースレター》を読んでもかなり本格的で、結構専門的なもので、私にはさっぱり解らないのだから。少し鯉さんの本でも買ってきて勉強しなきゃ恥ずかしいぐらいなのです。ちょっと面映いわね。この件、おそらくご辞退するのが無難でしょうね。

彼らは、来年のツアーで訪れた原産地で錦鯉を買い付けするつもりでいるみたいよ。うんと張り切っているのが解るのだけど。思えば、日本の錦鯉愛好者と何ら繋がりが無いのはあまりにも残念じゃない？その件で、友好関係を育ててゆくような方向へ《愛鱗会》の人たちの気持ち向かないかしらって思うの。どう思う？‘錦鯉狂いの英国人’なんて、嬉しいじゃない！あっちもこっちも‘鯉キチ’、その熱烈さには国境などないわけで・・・それに面倒を見てやることによる喜びとかいうのもあるしさ。英国へ訪れるきっかけともなって、日本の会員の皆さま方にも悪い話じゃないと思うのだけど・・・。えらく話しが大きくなっちゃったわねえ。あらまあ、驚き！

尚、Mr. シールの訪日は3月1日という事です。(バンコック経由の飛行機便とか)。

ところで、私の就職の件、一つ話しがまとまったのですが、もう一つの別の話しに気が乗っているわけで。とにかく3月1日には仕事を始めるというわけで、ここ2週間の間は慎重に検討しようかといったところです。タイピングはいい調子なのよ！2週間後に、Mrs. マーサ・ハリスの《乳児観察セミナー》で発表することになっているのです。その時までには、タイプをパチャパチャと軽〜く打てるようにと、練習に励んでおります。

それから、ちょっと興奮！小柄で足短かの私なんかロングスカートが似合うって、誰が信じるかしら・・・！濃い茶の厚地のを最近買ってきて、ジェーンが裾上げするのを手伝ってくれて、もう大仕事なものでした。アドリーンがミシンを持っていてすらすらと綺麗に仕上がったので、私は大満足なのです。そういうわけで、忙しくて忙しくてってというわけですが、頑張っておりますので、どうぞご安心を！ かしこ 千鶴子より



1974年2月23日 =速達=

お父さま&お母さまへ

国際電話の後に、早速書いていますところですよ。いっぱい話したいことがあったのに、もうバカみたい！錦鯉絡みの用件を伝えることだけで精一杯。まるで「コンニチワ&サヨナラ」で終わっちゃったみたいでさ。ちょっぴりがっかりよ。でも初めて自宅に国際電話したって興奮！意外に簡単で、ちょっと面白かったわね！Mr. シールのフライト便および日本での旅行プラン(3/1~3/12)については別にあとで書くとして・・・。

Mr. シールにしても、会長のMr. アレンにしても、此の度の《愛鱗会》との繋がりは‘瓢箪から駒’みたいなことで、半信半疑の面持ちでいらして、ひじょうに感激してはいるのだけど具体的にどう交渉していいのやら皆目見当が付かないといった有り様で、むしろ日本人々の出方を覗いているとか待ちの姿勢なわけなのです。そういうわけで、唯々感激の一語に尽きるという具合でお互い時間が経ってしまったわけだけど・・・。彼(Mr. シール)は役員さんで、来年の四月に企画しているジャパン・ツアーの下見だから、出来るだけあちこち見て歩きたいとかなり欲張って、きつい計画をたてているみたいなの。東京からスタートして、姫路、それに舞鶴にも立ち寄り、京都・奈良、金沢、富山に小千谷、長岡やらだつて。まあ凄い旅程だわよね。現地で2, 3の鯉業者とも会う約束はしているようですが。その道の知った人の援助がなければ、かなり大変なのじゃないかと思うのです。図々しく、ああして欲しいこうして欲しいって言わないのが英国紳士のタイプで、黙って出来るだけの奮闘はする覚悟でいるみたいなのですが。そちらで《愛鱗会》の全国ネットワークを活用して可能な

限りの便宜を図ってやって欲しいと、私は切に思うわけですが。マンチェスター発で明日(24日)、出発なさるので(ロンドン空港じゃなくて)、私はMr. シールに会うことは叶いませんでしたが、彼のご両親はロンドン在住とかで、いつかぜひ帰国後に私とも会いたいという話にはなっているのです。それで舞鶴行きは5日という予定にしておいでだけど、日程はずらすことは出来るって、そちらの都合で・・・と、まあそんなところですよ。面識もない方をご紹介してしまって、私としてはどうかなっていくらか気掛かりがないといえは嘘ですけど。もう後は万事うまく行くようにと祈るのみです。国境を越えての‘鯉キチ’ 同士の嬉しい出逢いだもの、きっと大丈夫よね？！

それから、先日の小包みのお礼の追加です。改めて、どうも有難うさんでした！たくさんいろんなものが入っていて、特に栗の甘露煮が最高に美味でしたよ！お蔭さまで、ほんとに感謝、感謝です！

私の方、ひじょうに多忙にしています。28日にセミナーで発表することになっていて、下書きは終わって、タイプに取り掛かっています。それをコピーして皆さんに配布というわけですよ。初めてのことであるので、張り切っているのです。自信があるんだ！なぜかね？！では、どうぞ皆さま方によろしく。さようなら 千鶴子より

《追伸》: Mr. シールからの伝言。羽田空港にて出迎えにおいでくださる《愛鱗会》の副会長の神谷氏(或いは秘書の方)に、月刊誌【鱗光】を念のため手に持って欲しいとか。お互いの目印にするためにとのことですので・・・よろしくお伝えくださるように。では、どうぞ頼みますね。



1974年3月17日

お父さま&お母さまへ

お久しぶりです。今日お母さまからシールさんの歓迎を滞りなく終えたという手紙をいただきまして、何度も何度も繰り返し読んで、舞鶴の家を恋しく懐かしく思っていたのです。

まあ、それにしても、此の度の首尾は上々で、感激の一語に尽きますねえ。シールさん、ラッキーでしたね！ジャパン・ツアーの幹事役を張り切って引き受けたものの、どうなることやらと内心ひどく心細がっていたみたいなのに。日本ではすごい歓待を受けた模様で。浴衣(ゆかた)を着せてもらったやら、豪勢な和食を食べさせてもらったとやら。おまけにあちこちで立派な錦鯉まで贈られ、又々、さらなるおまけで後からお土産の錦鯉が届けられるなんてねえ。ほんともうびっくりで、どういたしましょうだね！！

シールさんは今晚頃帰ってきてるかなと思いましたが、まだ電話はありません。まあそのうち感激いっぱいの手紙でも寄こしてくるかなと思うのです。3月の下旬にはロンドンを訪れるって、彼言ってらしたしね。

それからアレンご夫妻も4月にご主人がトルコに商用で行くらしくって、ロンドンに立ち寄り、ぜひ私に会いたいと言ってきました。私のフラットの近くに娘さんが居るみたいなの。いずれきっと会うことになるわね。人間の結びつきって面白いねえ。まだ顔も見たこともない同士なのに。キヤーキヤーと親しげに喋っちゃって・・・。錦鯉というのなにやら‘縁結びの神さま’なのかなあ、そもそもがさ。それから、5月の末から6月の始め頃こちら《英国錦鯉協会BKKS》の年に一度定例の総会があって、会員の皆さん方がお集まりなんですって。私も顔出しするのも悪くないかなと思いつつ、ちょっと尻込みしちゃってるわけ。

錦鯉の知識は乏しいし、そんなに錦鯉に対する熱情があるわけでもないし。えらく檜舞台に立たされるような思いで、内心とても恥ずかしがっているのです。でも、向こうが喜んでいるのですから、ちょっとお相手程度のお付き合いでも悪くないわよね。来るものは拒まずって、私も近頃では少々腹が据わってきましたもので・・。

それにしても、初めて外人さんを我が家に迎えて、結構皆楽しく喜んでいたみたいな風があるけど、誠にもう感心しちゃうわ。お母さまも英語を一応しゃべったとか。出来てますねえ、まっことに！お父さまも忙しい中をよくもまあそこまでシールさんの面倒を見てやったこと！Q子さんも通訳してくれたのね。さすが度胸があるというか、皆さんやるじゃありませんか！まずまず万歳万歳でしたね。

東京在住の《愛鱗会》副会長の神谷氏までがプラチナの錦鯉を1匹シールさんにプレゼントしたとやら伺いましたけれども、いやに話がでっかく拡がっていったじゃありませんか！まあね、私もまるで自分で蒔いた‘種’が花開いてゆくのを見るようでもあり、又私とは全然関係なしに、どうやらこれも神様の仕業で、私なんかもう知らんよーって内心思ったり、話の進展具合にギョギョとしてちょっと身を竦ませてたりしてたわけ。結果的には今回関わりあった方々皆さんが喜んでくださって、私としては感謝してもらったりですから、まるで面映いたらありません。たかがお魚さんの話なのにねえ。

ところで、全然別の話。私の専門のことなのですが。4ヶ月以上続いた隔週の個別指導を取り敢えず打ち切ったのです。(1回3ポンドお支払いしてたの。その値打ちはあると思ったし・・)それで、今や私は満ち足りた充実感に浸っているところです。長くも苦しい4ヶ月であっ

たけど、よくぞ頑張り、こうした機会を‘大成功’に終わらせられたと、自分で自分のこと誉めているのです。個別指導のためには、まずは【ホリス】での子どもの観察素材を纏めあげることからして、すべて私が準備し、提出しなきゃならないわけ。Mrs. マーガレット・ラスティンは聡明を絵にしたような頭の切れる方で、しかもお若いのに、ひじょうに経験と理解力があありで、その素材の捌き方もみごとやったけど、それに食らいついていて、観察素材を出しに出し切ったわけだから、私もお手柄やったと、この成果には十分に満足しているのです。心理臨床家のスタンスというのは、まず何よりも‘応答能力’が試されるわけ。実際のところ、相手することも相手されることもお互い難儀なのだけ。彼女も私も、双方ががっちり切り結んだという手応えが尊くも嬉しく思われました。すごく自信になりました！

先日の《乳幼児観察セミナー》での私の発表、大成功やったこと、既にQ子の方に報告してありますけど、聞いてくださったかしら？あの時もひじょうに湧きに湧いたのだったけど。何しろ赤子とお母さんの観察の発表ですし、幾ら人から賞賛されても今日のような深い充実感ってのはあまりなかったというか、取り敢えずは責任を果たし、肩の荷が下りたというか、だから「やってやった・・」と、あっさりしていたのでしたけれど。また、2週間後に発表が予定されてしています。皆さん方から‘アンコール’を是非にと所望されたというところ・・。とにかく改めて、「やってやる！」と腹を据えたところなのです。

児童養護施設【ホリス】を去って、このフラットに居を構えて以来、一ヶ月半も過ぎて、その間の収穫というものは、なんとも語り尽くせません。精神的な産みの苦しみというものとはどちら

かという、おいそれとは語らずに、いつしか発酵の時期を経て、見苦しくない形で格好よく表現したいものです。よくぞこんな苦勞をしいこんでいると自分で驚嘆することがあるのですが…。焦らずに、そして決して自棄のやんばちにもならずにおります。自室で一人タイピングと格闘してたりするときは、おっかない真面目くさった顔してるのに、いざ人と口を利くとなると、ニコニコと屈託なさそうにお喋りしているってはどうしたものやら、自分でも妙だと可笑しがっています。

実は次の日曜日に、タヴィの我々研修一期生だけの会合が予定されてます。或る個人のお宅に集い、それぞれ食べ物・飲み物持ち寄りでのざっくばらんなお喋りのひとときが企画されたわけなんです。というのは、多彩な顔触れではあるけど、それぞれ誰しも余裕があるとは言えないからか、皆将来に不安でいるのです。私の状況は、なんと言っても特殊で、それ故に一人で背負い込んで頑張ってるゆけなしいという趣きが根強くあるのですが。そう腹に据えているのやし。まあ同じ一期生同士、仲良しになっても悪くないと、その会合を、面白いことになるぞと、うんと愉しみにしているところです。

それから、次の火曜日の夕方ですが、Mrs. クロケットという、研修コースの教官の一人で、私の個人相談役でもある方と一緒に、他の人も交えてですが、ミーティングがあるんです。タヴィの人的つながりを内輪から覗けるチャンスでもあります。徐々に彼らの一人にいつしか私もなってるゆけなしいでしょう。私の態度というか、あり方は自立し確立した状態にあるのですし、どの方とも臆せずに出て、積極的にプラスの影響を賢く受けてゆこうという姿勢です。一期生ぐらいたと、あまり感心しない人がいなくもないけど、

さすが4年修了したとなると違うんだなあ。国籍を問わず、どなたも個性的で美しくいらっやるの。それからここタヴィでの進級とは、まさしく‘自然淘汰’と云ってもいいかも知れない。熾烈な‘席(ポスト)’の奪い合いといった意味では決してなくて、ごく自然に無理のないところでそれぞれが身の収まりどころを得てゆくってことなんでしょう。こうした状況では「資格づけ」が云々されることは一切ありませんわけで。私にしたって、全面的にタヴィに傾倒してるつもりでもなかったし、得るものがなきゃ去ってやるという強腰ではあったわけだけども。実際のところ、今後コースに残されるか外されるかということでは皆誰しも一様に不安でない者はいないといっているのです。私は将来此国に留まるつもりはないのですし、コースの進展のあり方やら、冷静に状況を見定めながら、要は、どこまで自分にとってここを成長のチャンスにしてゆけるかでしょう。

これ迄の1ヶ月半の間、就職活動を懸命にあれこれ試みてきました。去年の10月末頃から真剣にまるで多くの無駄足を踏んだのですが、やっとここに至って、今の状況ではとてもまともな仕事(ポスト)を得ることは期待できないという結論を下さずにはいられないということになりました。冷静に将来を計算した上で言うわけなんですけど…。ここで自分の中の‘欠乏(欠損)’から目を背けることはできません。誰に言われずとも、自分で分かるわけ。私はまだまだダメだってこと…。たとえ贅沢に聞えようと、是が非でも児童サイコセラピストになるため、素養としての‘経験’を積むことが目下急務ということになります。つまりは、本格的な児童のサイコセラピイに携わる以前に、私が此国で見ておかななくてはならない、知っておかねばならないことが多々あるということなのです。

そこで、コースの主任教官でいらっしゃるMrs. ハリス、そして先輩(トレーニング修了後、タヴィストックで職を得られた方)でもあるMiss. ハルパーンからもご助言をいただき、或る著名な病院での障害児らの観察と、さらには幼稚園での健常児らの観察を、それぞれ開始することにした次第です。それは無論、報酬はありません。むしろこちらから観察者(オブザーバー)としてお願いするというわけなのです。それだけに得るのはがっちり得てやるという覚悟なのです。自分を信頼するからこそ言うのですけど。何よりもやはりいい経験をするということ、時間的に余裕を持つこと、経済的にも余裕が少しでも要るということを感じます。そうでなければ、伸びるものも伸びずに萎縮して枯れて死んでゆくという恐ろしい現実を見詰めるとき、やはり無理は禁物。焦ってもダメ、じっくり腰を据えて取り組むことしかありません。そしてここタヴィで導かれ、育てられたらいいなと思い始めてます。そして出来るものなら、4年修了してみたい、何としても・・・、そして日本へ帰りたいたいという気持ちになった次第なのです。

そういうわけで、とんでもハッポン！送金をお願いするのが予想していた時期よりも早く、まことに心苦しいのですが。何ヶ月今後仕送りをお願いしなくちゃなんないかも、今のところ解りません。こういう人間関係の錯綜した世の中ですから、明日我が身に何が起こるやら、全然分かんないという具合なのですから・・・。そういうことですが、お願いできますでしょうか？

一ヶ月に4万円は最低掛かる(欲しい)という計算なのですが、面倒見切れな思われますか？送金の方法は、ひじょうに簡単で、『富士銀行』にその手続きを依頼すると、電報為替かで一日も掛からずに、ロンドンの『富士

銀行』に連絡が入って、私の方に小切手が届けられるという寸法なのです。どうぞよろしく願い致します。今はもう両親にひたすら頭を下げることしか出来ません。かしこ 千鶴子より

《追伸》:

随分書いたので、疲れた！あと当分書かなくてもいい感じ！でもちょっと最近嬉しいことがあったのであともう一つ！私の観察している赤ちゃんのペピのお尻に青いマーク(蒙古斑)があるの。黒と白の合いの子には必ず出るんですって。それで日本の子どもの場合どうだったかのが、どうも私の記憶が不確かで、セミナーでの発表の少し前で、お母さまにたよりして問い合わせる時間的余裕がなかったし、先日国際電話した折に聞こうかと思つたけど、まさかお尻の話をチャカチャカする気にもなれず・・・。それで結局、例の『ミドリヤ』という日本食品の店の掲示板に家庭教師の広告を出していたアツコさんという女性(「東大」出身で、「東大」に学士入学して、ドイツに2年半留学していて、英国人と知り合つて、日本でその人と結婚して、2年近く前にロンドンへやってきたという実にユニークな経歴の面白い女性！)に電話で問い合わせ、それから話はとんとんと会おうじゃないかということになって、2日前に彼女のフラットをお訪ねしたの。午後の2時過ぎから6時前まで、ご主人が帰宅されるまで、もう盛んに喋りに喋って、それからご主人と3人で夕飯をいただいて楽しかったの。いい人たちだったのだよ。アツコさん、陶芸なさっているの、そのうち私も作ってもらつつもりなのです。久し振りで日本茶をいただいて、私が持参した羊羹、お父さま・お母さまから貰つてあったのをおみやげにしたものだからすつごく喜ばれたのだよ。私もご相伴しましたし。お蔭さまで、ほんとに有難うでした！

.....



1974年3月19日

お父さま&お母さまへ

先日の金曜日に例の長い長い手紙を出した後の晩、Mr. シールから電話をいただきまして、又々べちゃべちゃと長々愉快なお喋りでしたの。

それでちょっと一言、ぜひお耳に入りたいことがあって、ペンを執った次第です。彼は、そりゃあそりゃあ感激していました。帰国後も、夢か幻かという具合で、その興奮は冷めやらず消えやらずみたいでして…。月末にはスライドも出来上がるとか。彼に会えるのが楽しみ。一層のこと話が弾むことでしょう。それから、あちこちからお餞別って錦鯉をいただいたようなのですが。月曜か火曜にはそれらの鯉さんたちが空港の税関に届くんだそう。無事に着いてくれたらいいなと、私も内心気掛かりにしているところです。

それと、シールさんのお父さまの苦い戦争体験、敵国日本への忌避感も伺いましたけど、ひどくよく理解できます。あの当時の混乱した世情で起こったお辛かった記憶を抱かれて、今なお深く恨んでおられるとしたら、どうお慰めたものやら…。我々これからの世代同士がいつそうに友好の絆を深められたらいいわね。此の度のことはひじょうに意味のある出来事になるんじゃないしら。世の中の巡り合わせの面白さ・不可思議さなどを思ったりしているのです。日本人特有の‘荒ぶる魂’とは対極の、もう一つ‘優美なる魂’を象徴するのが、秀逸にして穏やかな氣質の鑑賞魚・錦鯉であろうかと思われま

此の度わざわざ日本からMr. シールに贈られて渡英してくる鯉さんたち



が、此地で立派に‘親善大使’を務めてくれたらなど、秘かに祈っているのです。

さて、その‘ぜひお耳に入りたい、重大なこと’と云うのはね。彼、別に私がして差し上げたことに特別なお世辞を言って返さなきやと思っているわけじゃないでしょうに、我が家の庭

が一番良かったって褒めるのよ！真剣にそう言うんだから！あらまあ、どうしましょうね！《愛鱗会》の錚々たる方々のご自宅のお庭をあちこち拝見して回ったはず。我が



家のが一番なんて、そんな筈ってあるかしら？確かにあの石庭はお父さまの作図で、どこか妙趣はあるとしても…。錦鯉だっさ。どうしたって最後は財力で負けるってことがあるじゃないのさ。



まあ、そんなことはともかく、ちょっと誇らしいじゃありませんか！素直に喜びましょうね！！

それから、お母さまそしてQ子さんにも大いに惹かれたらいい。とても印象深かったって手放しで誉めてくださって。それに、お父さまが本当にてきぱきと総てことをうまく運んでくれたって、ひどく感激しておいででした。まあ、ほんとに万歳万歳でしたね！ご苦労さま！！

さて、こちらロンドンの話しだけ。今日の午後、「タヴィ」の一期生の会合が催されました。それぞれの持ち寄りのえらく豪華な手料理やらワインやらの飲みものがテーブルの上に出揃い、和気藹々でそりゃ愉しかったの。それぞれ過去の経歴などはさまざまでしょうが、皆頑張っ

ている感じ！それにしても、皆それぞれに个性的で、感じが良いということでは感心するばかりです。人間としてセンスがいい、雰囲気がいってのは、ご一緒していてまるで安心できるということ。とにかくにも誰しもが我が道をゆかって張り切っているの。日頃タヴィの内輪では、身内意識を強調して、お互い同士《タヴィストック・ファミリー》って呼び慣わすことがあるんだけど。自分がいつしかその一員となってる！どうやらこの集団に愛着を覚えつつあります。では又。

千鶴子より



1974年3月29日

お父さま&お母さまへ

こちら久し振りの陽射しの温かな日です。この頃の気候といえば、霧は深いし、冷え込みはきついし、風邪も流行っています。私も引いたことのないような、ひどい風邪を引いてしまい、なんだか治りが遅くて、すっきりしません。誰も彼もがコホンコホンと咳してるのだから、仕方ないとはいえ、これからはうんと用心しなきゃと言いつけています。日本の春がとても恋しいです。春よ、来い来い！ですね。

さて、いつぞやお話ししましたように、タヴィの教官たちからご紹介を得て、今やあちこちの施設で「子どもの観察」に専念しております。【セント・トーマス病院】には週一回定期的に訪問します。ここはテムズ河下の貧困層の住まう場所に位置してるため、実にさまざまな問題を抱えた子どもたちが通う治療保育施設です。【トーマス・コラム・チルドレン・センター】へは



差し当たり週2回ほど通い始めました。ここは低年齢の健全児たちのごく普通の



保育施設です。私はまったくの責任のない立場で、手出しもしない・口出しもしないで、ごく気楽にその場に居るといっただけ。さすがタヴットクからのご紹介ということで、お役に立てるならばって、スタッフのどなたもとても気持ちよく受け入れてくださってる。私は本当に満足しています。誰



の指図があったわけでもなく、自分で悩み、考えに考えて、あっちこっち頭を下げての結果だから、

もう嬉しくて、トントンと踊りだしたいような気持ちなのです。それにつけても、家の両親には本当に有難いと頭が下がります。こんなに我が儘に勉強させてくれるなんて、聞いたことないですね。ともかくいろんなことがスタートし始めて、金銭的にもしっかりやってゆける安心が出来たし、張り切ってます。事実見るもの・聞くものには圧倒されてます。此国の格差社会の歪みは日本じゃ考えられない程、凄まじく酷いの。私は時折呆然としてただ呻くばかり・・・。学問的見地からはひどく刺激的です。では又。 千鶴子より



1974年3月30日

お父さま&お母さまへ

今日は、陽射しいっぱいの、とても気持ちのいい土曜日でした。「リージェント公園」では池でボートを漕ぐ人々がいっぱい、花々も固い土の下から芽吹いてきましたし、桜の花が微かに匂って、やっぱり春はいいですねえ。

さて、今日の夕方、ミスター・シールが訪れました。客間でお茶のおもてなしをしながら、日本のこといっぱい聞くことが出来、お蔭で私はぐーんとホームシックです。(後で、お父さまの録音してくれたカセットテープの民謡を再び聴きました。良かった!) さてさて、彼の話だけど、かなり‘発展家’さんですね。明日の朝、大阪から彼が買い付けした錦鯉がロンドンの空港に到着するんですって。それって彼の属するBKKS北部ランチの人たちが共同で資金を出して取り寄せたもので、明日皆が集まって、それらを分け合うんですって。おそろくジで決めるみたいだから、選り好みは出来ないにしろ、こちらで買うより安値で、錦鯉さんもかなり生き延びるのですって。苦労してるわねえ。それからジャパン・ツアーの企画も、ある日、ふと出た話からニュースレターの通信欄に載せてみたら、意外と多くの反応があってということから始まったらしくって、今のところ、旅行代理店と費用の件で交渉してる最中なのですって。本当にシールさんって、若く見える人だったねえ。彼の奥さんのポーリンも電話でお話したただけだけど、とても落ち着いた、いい方みたい。十代の男の子が二人もいるなんて信じられないぐらい。ニコニコと愛敬良く、ああだった、こうだったって、日本でのことを話してくださったの。よくまあと感心するほど、あちらでお会いした方々のお名前を覚えているのよ。それから、お餞別として貰ってきた鯉たちに、その送り主の名前を付けて呼んでいるんですって。そのうち忘れるかも知れないからだっさ。失礼になるかなあって、彼気にしてたけど。可笑しいやら愉快やら。別に構わないわよね。それから、スライドの写真も見せて下さって、私なんて全然知らない人たちといっぱい出会っているものだから、もう驚いた! 因みに、《愛鱗会》副会長の神谷龍氏という方だけど、ご年輩で温厚な老紳士といった

お方みたいでしたね。どこかの大企業のおえらい方とか。素敵な日本人に出会われたんだって、シールさんのためにもほっと安堵。それもこれもチズコが取り持ってくれたお蔭だって、彼はすごく喜んで感謝されました。<そうじゃなきゃ、もう淋しくて心細くて、早く帰りたくなっていたらう・・>って、おっしゃったわよ! ほんとほんと、おそらくそうでしたでしょうね!

舞鶴のことは、一番楽しかった思い出なんですって! 私がお母さまにすごく似ているとやら、私の声がQ子さんと同じだとやら! 可笑しいわねえ。もうすっかり彼が私の家族にぞっこんなんだもの。お母さまからのおみやげもとても喜ばれてました。特に箸は大喜びなのでした。今回私の手持ちの我が家の庭の写真も、彼が預かって持って帰られたの。明日、北区ランチの皆さん方にお見せするとやら。ご一緒に旅のおみやげ話に花を咲かすことでしょう。近いうちにぜひストックポートにいらっしやいとのお招きでした。自動車賃のこと心配されて、出してあげるからなんて、私を気遣ったことおっしゃってらした。ほんとにそのうち訪れることがあるかも知れない。鯉たちのようすも気掛かりですし。彼に‘鯉キチ’という言葉を教えたわけ。もうすっかりお気に召したみたい! 私は彼らに深入りするのにはあまりにも自分の仕事に忙殺されてる。でも時に息抜きにこちら英国の‘鯉キチ’たちと会うのも悪くない。それぐらいの余裕を持てたらいいかなって思ったり・・。人と人との巡り合いって、実に面白いわね。シールさん、日本で知り合った方々宛にご挨拶状を出すのに四苦八苦してるみたい・・。それも結構ワクワク愉しんでいるみたいよ。「終わりよければ総て良し」で、ほんとに、皆々さま、ご苦労さまでございました! では又。 千鶴子より
.....